

Worldwide Friendship

第20回 国際ふれあいパーティー



第20回 国際ふれあいパーティー

～ 太田市国際交流協会設立20周年記念 ～



国際交流に関心・興味を持っている方々を対象に、外国の方々と相互理解を深めることを目的に毎年行なっている国際ふれあいパーティーを9月18日（日）にマリエール太田で開催しました。今年は太田市国際交流協会設立20周年記念の年であり、多くのボランティアスタッフと企業・団体の協力をいただき、20カ国378名の参加をもって盛大に開催することができました。

今回はアトラクションにも大勢参加をいただき、サンバショーヤやブラジルのこどもたちの創作ダンスにストリートダンス、民俗研究会の勇壮な太鼓演奏、フィリピンの皆さんのキヤンドルダンス、そしてペルー音楽、それぞれ来場者を楽しませていました。また、抽選会では多くの企業・団体からの協賛をいただき豪華な抽選会となりました。

HEAD LINE

- 1 第20回国際ふれあいパーティー
- 2 「外国人市民との共生は必要ですか」を議論する懇談会
- 3 シンポジウム「外国人が支える地域経済のこれから」
- 4 平成23年度太田市国際交流協会総会
- 5 キッズ・イングリッシュ・スクール2011
- 6 国際姉妹都市バーバンク市交換学生派遣
- 7 太田日本語教室あゆみの会受講生
- 8 「世界の料理教室」
- 9 太田ユネスコ協会「英語キャンプ」
- 10 太田ユネスコ協会「国際理解バス」
- 11 アジアからの留学生ホームステイ事業
- 12 Friendship Information
- 13 Voice to voice

「外国人市民との共生は必要ですか」を議論する懇談会を開催

太田市国際交流協会設立20周年記念事業の一つとして8月20日（土）に太田市役所で、外国人市民との共生を考える懇談会を開催しました。市長ほか企業関係者、ボランティア団体、区長、福祉関係者等が意見交換を行い、職場では外国人がすでに責任ある立場にいることや、介護現場で必要とされているが制度上課題がある等の意見、生活習慣の違いやマナー、言葉の問題によるコミュニケーションの難しさなど、地域で生活するうえでの課題が指摘されました。また、既に太田市でも進んでいる人口減少と少子高齢化等の社会情勢の中で、今後どのように共生社会を築いていくかの議論を早急に深めていく必要性が認識されました。



シンポジウム「外国人が支える地域経済のこれから」

9月18日（日）に開催された第20回国際ふれあいパーティーに先立ち、「外国人が支える地域経済のこれから」と題し、外国人市民とどのように向き合い、共生を進めていくかについて議論するシンポジウムを開催しました。これは太田市国際交流協会設立20周年記念事業の一つとして開催されたもので、少子高齢化による人口減少社会を迎えるつある日本と日本人が、外国人とどのように関わり、どのように共生を図っていくべきかについて、活発な意見が交わされました。



平成23年度 太田市国際交流協会総会

6月1日（水）午前10時より太田市役所3階大会議室で行なわれ、平成22年度の事業報告及び収支決算報告、平成23年度の事業計画及び事業予算について審議が行われ、全議案が承認されました。



キッズ・イングリッシュ・スクール2011開催

7月27日（水）～29日（金）の3日間、福祉会館で開催されました。53名の小学生が参加し、17名のALT（英語指導助手）と楽しく英語を学びました。

学年ごとに分かれてゲームをしたり、みんなで歌を歌って、ダンスをしたりと体を動かしながら英語にふれました。



◇子どもたちの声

先生が楽しく教えてくれたり笑わせてくれたりして楽しめた。来年も参加したい。

外国の先生と一緒に遊んで楽しかった。新しい友達もできてよかったです。

風船を使った遊びが一番楽しかったです。英語ができる人でもとっても楽しめるので、来年1年生になる人や、やったことがない人にぜひ参加してほしいです。

B
英語のゲームとができる、ABCの歌も歌えるようになって、とっても楽しかった。

C



国際姉妹都市バーバンク市交換学生派遣

今回で14回目を迎えたバーバンク市への交換学生の派遣。今年は、高校生7名、中学生6名と引率者2名の計15名を、7月26日から8月9日までの2週間派遣しました。

派遣期間中は、現地の姉妹都市委員会や市民ボランティアの方々のご協力により、バーバンク高校やジョン・パローズ高校を訪れ、英会話クラスに参加し現地の高校生と交流したり、アメリカ西海岸の太陽の下、ホームパーティー やサンタモニカビーチで現地の方々と親交を深めたりしました。

また、ワーナープラザーズスタジオ、ディズニーランド、ドジャースタジアム等、いろいろな施設や観光地も見学し、滞在先のホストファミリーとの生活を通じて、アメリカの生活習慣や文化など、たくさんのことを見ました。

【バーバンク市紹介】

アメリカ合衆国カリフォルニア州バーバンク市はロサンゼルスの住宅衛生都市として発達、同時にワーナープラザーズ映画やロッキード航空会社、それらの関連工場などができ工業が盛んとなりました。現在、ロッキード社は撤退しましたが、大型ショッピングセンターが跡地に建設されています。さらに、ウォルトディズニーカンパニーやN B Cユニバーサルがあることで有名です。また、温暖な気候とあいまって、ロサンゼルス近郊の都市の中では最も生活しやすい町といわれ、市の財政も豊かで環境整備の行き届いた町です。



歓迎レセプションでのバーバンク市長挨拶



サン・フェルナンド修道院前



Gordon R. Howard Museum



バーバンク市 Fire & Police Station

【参加者の感想】

- いろんな人にお会えたのが貴重な体験になりました。アメリカに行った時の一つの目標が、いろんな人と話して、いろんな人と友達になることでしたので、積極的に話す事によりいい友達をたくさん作ることができました。
- 自分のいいたいことが具体的に伝えられず、机上の英語の勉強と、実生活での英会話の違いを痛感しました。次回行く時は実用英会話を学び、きちんと自分の気持を伝えられるようにしたいと思います。
- 2週間本当に楽しかったです。新しい友達もでき、ホストファミリーの方も優しく、とてもいい方たちに出会えたと思います。バーバンクは都会ですが緑もたくさんあり、空気も綺麗で本当にいいところだと思いました。私もいつかあんなところに住んでみたいです。



オートリーミュージアム



Autry Museum



バーバンク高校

- アメリカの人は皆で助け合ったりとてもオープンで、映画館では拍手をするとか、今の日本に大事なことだということを感じました。
- ホストファミリーの方も、現地の方々も皆優しくて、たまに英語がわからなかつたりするとゆっくり話してくれたり、私の下手な英語もがんばって聞き取ってくれたりして、凄くうれしかったです。
- 最後に別れる時は本当に悲しくて、涙があふれ出てしまいました。本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。
- 現地でいろいろな所に行くことにより私の世界観が変わり、今の目標は、将来アメリカで働いて、暮らすことです。目標が変わるくらい、この2週間はすごく楽しい日々でした。



交流ピクニック

- アメリカ人は凄くフレンドリーで、すぐにジョークを言ってくれたりしてくれました。このフレンドリー精神が私の人見知りを直し、英語力を伸ばしてくれたと思います。これらの経験を自分のためだけではなく、人の役にも立てたいと思います。
- アメリカのいいところは、男女間の友情が存在するところです。友達として普通にハグするとか、そういうのが本当に多くてビックリしました。



ディズニーランド

太田日本語教室あゆみの会受講生 「世界の料理教室」

勤労青少年ホームにおいて、6月5日（日）日本語教室あゆみの会の主催による「世界の料理教室」を開催しました。当日は9カ国72名の受講生が参加し、みな慣れた様子で手際よく調理を進めていました。

会場は各国様々な香辛料の香りに包まれ、異国の雰囲気が漂いました。日頃見慣れた食材も各国の調味料、独創的な切り方、調理法により、普段味わうことのできない料理が次々に出来上がってきました。

食事会ではブラジル・インドネシア・タイ・フィリピン・中国・パキスタン・日本料理の紹介があり、食事とともに会話も弾み、交流を深めるよい機会となりました。



太田ユネスコ協会 「英語キャンプ」

今年で第9回となった太田ユネスコ協会主催の英語キャンプ。中学生52名、ALT15名、日本人スタッフ15名が参加して8月6日から8日まで2泊3日の日程で、東毛青少年自然の家を会場に実施されました。

市内各中学校から集まった生徒たちは、他校の生徒たちとすぐ仲良しになり、スキット練習やゲームなどを通じて「聞く話す英語」に楽しく挑戦していました。この生徒たちの中から、いつか外国人の人たちと気軽に意見交換できる人がたくさんでてくることでしょう。



太田ユネスコ協会 「国際理解バス」

8月24日（水）太田ユネスコ協会主催の国際理解バスを運行いたしました。

この事業は未来を担う青少年が外国人の人たちとふれあうなかで国際感覚を身につけていくだこうという事業で、今回の目的地はJICA筑波です。



この施設は農業関係の技術を学ぶ海外からの研修生を受入れています。施設からの説明で、3月11日の東日本大震災では、世界195カ国内の176カ国から支援や激励があったとの紹介がありました。

また、JICAの支援は物資を与えるというものではなく、支援国が自立できるようにするための手助けが主体で、この活動を通して、命の尊さも学んで欲しいと結んでいました。

さらに筑波宇宙センターも見学してきました。

日本の家庭生活を体験しました！ ～留学生ホームステイ事業～



9月7日（水）～13日（火）の一週間、留学生を対象にホームステイ事業を実施しました。関東学園大学に通う韓国、マレーシア、台湾、中国出身の学生が参加し、日本文化体験や、太田七福神巡り、市内企業・施設訪問などを行いました。

みんなの感想

- ◆「外国人」という壁を越えて、初めてこんな近く日本人と接することができて感動しました。
- ◆ホームステイに最初不安はありましたがあ、ホストファミリーはすごく優しい方々なので気軽に相談できたりするので安心して泊まることができました。
- ◆浴衣を初めて着ました。また着たいです。
- ◆ホストファミリーはとてもとても優しい可愛い家族で大好きです。



FRIENDSHIP INFORMATION

各種イベント

・国際交流広場

日時：10月22日（土）～23日（日）
会場：太田スボレク祭会場（運動公園サブグラウンド）

・第15回外国人日本語スピーチコンテスト

日時：平成24年3月4日（日）午後2時30分～
会場：学習文化センター（2階）視聴覚ホール
◆出場者募集中◆

各種語学講座

・初級スペイン語講座

日時：10月21日（金）～11月25日（金）
午後2時～3時30分
会場：国際交流センター（第1講座室）

・初級ポルトガル語講座

時期：平成24年2月予定

・韓国語講座～午前クラス～

日時：11月14日（月）～12月19日（月）
午前10時～11時30分
会場：国際交流センター（第1講座室）

・韓国語講座～夜間クラス～

日時：11月9日（水）～12月21日（水）
午後6時30分～8時
会場：国際交流センター（第1講座室）

・デイリーイングリッシュ（英会話講座）

日時：11月4日（金）～12月9日（金）
午後2時～3時30分
会場：国際交流センター（交流サロン）

・初級日本語ボランティア講師研修講座

日時：11月5日（土）～11月26日（土）
午前10時～12時
会場：国際交流センター（第1講座室）

・中級日本語ボランティア講師研修講座

時期：平成24年2月予定

◆会員募集中◆

国際交流に関心のある方、ぜひご加入ください。
会費(年額)：法人一口 5,000円 個人一口 1,000円

VOICE TO VOICE

We Aren't so Different You and I

Nathan Barbe

I remember the moment I decided to learn Japanese. It was my junior year of high school and I was sitting in front of the computer at my desk in the latter of two back to back technological arts classes, C++, a computer programming course, and architectural drawing. At the time, I was transfixed by the ritual of creation and the cathartic affect of debugging—not to mention dreams of financial grandeur—and I thought for sure that I would one day become either a game programmer or an architect. But the classes themselves were less than engaging and lacked both the intellectual challenge and work load to keep me distracted from the boundless resource of entertainment at my fingertips. It was this lack of academic responsibility, coupled with readily available Internet access and my growing disinterest in flash games, which led me to spend my free time on a more academic pursuit, learning Japanese.

"But why learn Japanese?" Well I suppose, like any other decision, it was based on perceptions. I had always held a warm affection towards bilingual people and the concept of bilingualism; I convinced myself that with my good marks in Latin I was fairly adept at learning languages; and I was under the impression that non-romantic languages offered the greatest challenge for Westerners. For a brief period of time there was a toss-up between which Asian language to choose: Japanese or Chinese, but in the end the appeal of samurai, politeness, and bushido held sway against the image of kung-fu and Confucian ideals of decorum. I guess you could say my decision to learn Japanese, major in Japanese during college, and ultimately come work here in Japan came down to military and philosophical history, the reflections and images Japan has created in the West, and perhaps most of all the appeal of something different: something outside the norm of Hanover, Pennsylvania where we are known mainly for our production of snack foods.

So what surprised me the most upon coming here? It was that Japan and the Japanese are not as different as originally perceived. There are certainly areas that differ in respect to my home town, but basically these differences are equivalent to the varying sense of fashion among two people: in the end it's the same animal wearing a different suit.

Don't get me wrong, there have been times arguing with elderly trash patrols about the opacity of translucent trash bags that I've been utterly stunned by the strangeness of their fashion, but Japan has yet to present itself as the Martian landscape one might expect. In the end, "We aren't so different you and I".

それほど違わない

あなたと私

藏塚本町中学校ALT

(外国語補助教員)

ネイサン・バルブ



日本語を学ぼうと決心した瞬間のことを覚えている。それは、高校2年生の頃で、「C++コンピュータ言語」と「建築画面」という2つの技術系科目を連続で受けていて、後者の授業でコンピュータの前に座っていた時だった。当時は創作作業を形式的にいそしみ、バグ除去に没頭し、いつかはゲーム・プログラマーが建築家になり、大富豪になるのだと妄想していた。

しかしこれらの授業に全く魅力を感じられなくなっていて、知的好奇心を満たすことが出来なくなり、すぐ手の届くところにある無数の娯楽について気がそれがちであった。勉強意欲が薄れ、インターネットに夢中になり、同時にフラッシュゲーム（アニメ化された冒険等をテーマとしたコンピュータゲーム）に飽きてきたことが、日本語という、より学究的な学問に空き時間を投じる方に、向かわせたのである。

「なぜ日本語を？」と思われるだろうが、どんなことを決める時でも、物事をどう捉えるかに掛かっている。私は、2ヶ国語を話せる能力のある人に親しみを感じ、ラテン語でよい成績を取っていたので、語学にいくらか長けていると自信を持っていた。しかし、ラテン語を起源としない言葉は、西洋人には難題という印象を持っていた。アジアの言語である日本語または中国語のどちらを学ぼうかと迷っていた時期もあったが、最後には「侍」や「礼儀正しさ」、「武士道」に感じる魅力が「カンフー」や「孔子の礼儀作法」のそれに勝った。日本語を学び大学で専攻し、最終的に日本に渡り仕事をする決心をした。それは、日本の歴史や哲学史、西洋が日本に対してどんなイメージを描いてきたかに興味があったからである。そして何よりも異質なものへの憧れ、つまり私の出身地であり、菓子生産で知られているベンシルベニア州ハノーバー市と違うものを求めていたからである。

では、来日して何に一番驚いたのだろう？それは、私が元々思っていたほど、日本や日本人が異なっていなかったことだ。日本と私の故郷である側面では確かに差異があるが、その違いは2人の人間がお互い異なるファッショセンスを持っている程度であり、行き着くところは同じ動物同士が異質の服装をしているだけのことだ。とは言っても、私にだって町内の環境美化委員のおじさんたちとゴミ袋の透明度について口論になり、彼らの不思議なセンスに仰天したことはあるが、今のところ日本のこと、火星ではないかと思うほど、違っているとは感じていない。結局、「それほど違わないあなたと私」だと思う。



Snyder's Factory Store

編集後記

太田市国際交流協会では、ホームページを開設し、当協会の情報を日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語で掲載しています。皆さんからのご意見・ご要望などもぜひお聞かせください。お待ちしています。

<http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-007kikaku-kouryu>